

学 生 だ よ り

＜お国自慢＞

『宮 崎 県』

河 野 友 美（4年次）

みなさんは宮崎県に対してどのようなイメージを持っていますか。田舎、前東国原知事、地鶏、神話といった声が聞こえてきそうですね。

イメージを裏切らない田舎ののどかさの中で、私が大学に入るまでの18年間のびのびと過ごしてきた故郷ですが、うちな一タイムならぬ、日向（ひむか）タイムという言葉があり、宮崎県人は時間にルーズでありながらも寛大に受け止めるところがあります。宮崎県の醍醐味といえば、冷汁、チキン南蛮といった郷土料理をはじめ、最近では宮崎牛、宮崎地鶏、肉巻きおにぎり、マンゴーなどが代表するような豊かな食文化を堪能できることでしょう。大きな店よりも小ぢんまりとした路地裏の店に入り、焼酎片手に店主と話をしてみるのもいいと思います。旅行客をととても大切にする宮崎県人ですから、喜ばれてサービスしてくれるかもしれません。

近年の鳥インフルエンザ、口蹄疫、新燃岳（しんもえだけ）噴火など、農業が経済の重要な地位を占めている宮崎県にとって「どげんかせんといかん」事態は、東日本大震災の陰に隠れて忘れ去られてしまいましたが、宮崎県の復興においても注目してほしい一面でもあります。流行語になった「どげんかせんといかん」は、文献によると薩隅方言であり、いわゆる宮崎弁は「どんげかせんといかん」だそうです。私は後者のほうがなじみ深いですが、あまり使いません。語尾に「～やっちゃわ」や「～やがね」とつけることが多いですが、なん

といってもその話し方のイントネーションは独特のものがあります。初めて聞く人は違和感があるようでよく笑いますが、本人たちは笑われたワケに気付いていません。

また、宮崎は神話と伝説のふるさとと言われていきます。古事記や日本書紀に記されている数多くの日向神話は今も宮崎の人々に伝説として伝わり、その史跡は観光名所となっています。神話や伝説とともに生活してきた人々によって生み出された神楽（かぐら）は宮崎の文化そのものであり、国の重要無形民俗文化財に指定されています。山の恵みに深く感謝する儀式であり、晩秋の一夜限りに降臨する神々に奉納する厳粛な舞が行われます。神楽などの歴史資源の宝庫である高千穂町には、その場に立っているだけで只ならぬ空気を感じ、まるでもののけ姫の世界を連想するような神宿るスポットがあります。是非足を運んで肌で感じてほしい場所の一つです。

海が好きならサーフィンやダイビングをするのも良し。海に飽きたら川辺でキャンプをするのも良し。ワイルド派なら山に登るのも良し。心と身体を癒したいなら温泉に入るのも良し。野球ファンならキャンプをみにいくのも良し。南で冬を満喫したいなら、五ヶ瀬でスキーをするのも良し。ここでは語りつくせない宮崎の魅力に是非触れてください。きっと宮崎県の良さを感じていただけたと思います。

